

TASUC文京教室(児童発達支援) における自己評価結果(公表)

令和6年2月調査 ○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	1	1			スタッフの動きやメンバーさんの動きを促し、利用時に安心して学習や身体づくりに臨める環境にしたい。
	2 職員の配置数は適切であるか		1	1		作業効率や内容を考えつつ、利用者の方に最大限の利益ができるようにしていきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	2			子どもたちに分かりやすい構造化になるように日々、考えながら工夫しています。	構造化は利用者の方の声に耳を傾けつつ、日々改善させていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	2				
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	2			子どもたちの様子をスタッフ間で共有し、次の支援について検討している。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	2				
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	2				
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2			法人本部からの視察を受けて、評価改善している。	第三者評価については、法人本部と連携して検討している。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	2			月研修会や振り返り等で対応方法についてやPDCAシートの活用でスタッフ間に相違がないようにしている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	2			日々、子どもたちの様子をスタッフ間で共有して支援を行なっている。課題内容なども定期的に変更している。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	2				
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	2				
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	2			個別支援計画を見直しながら療育を進めるように、スタッフ間でも共有の時間を作っている。また療育ないではご家族に共有するようにしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか	2			期日を決めて、定期的にプログラムの改変や新しいものへの取り組みを行っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	2				
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	2				
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	2				
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	2				
	19 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	2				
関係機関や保護者との連携	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	2				
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	2			園から小学校などへ進学するお子さんには、サポートシートなどを親御さんと一緒に作成している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	2				
	23 医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等の在宅支援のために、地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	2			医ケアのお子さんはいらしていないが、地域とのつながりながら適切な支援先に繋がれるようにしている。	
	24 医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2				
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	2				
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	2				
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2				
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2				
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	2				
保護者への説明責任等	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	2				
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	2				
	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	2			親御さん同席で療育を行なっているため、療育内容についてや子育ての相談についてなど親御さんとのコミュニケーションがとりやすく、大切に考えている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	2				
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	2			毎日チューター連絡を行い、療育の振り返りや家庭での様子を把握するようにしている。また次の療育で反省を活かすようにしている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	2			家族会や療育後のストレスの時間を利用して、ご家族同士が繋がれる機会を作っている。	
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	2				
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	2			月間予定表やSNSを活用して、教室での取り組みを公表している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	2				
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	2			お子さん理解のために、ご家族のニーズとお子さんの実態を正確に捉えて療育の中で伝えるようにしている。	
非常時等の対応	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2			特別期間プログラムでは地域の企業や地域で活動している人を講師や助言者として招き、催しを企画している。	
	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	2				
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	2			年間で予定して避難訓練を行っている。その結果は教室にも掲示したり、SNSで発信している。	
	43 事前に、予防接種やてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	2			入会相談時に既往等については確認している	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	2				
45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	2			ヒヤリハットは毎日の振り返りで共有し、記録をしている。		
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	2			研修の機会を設け、虐待になる案件やそうならないための対応方法を一緒に検討している。		
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	2			身体拘束は行っていない。		